

東京災害ボランティアネットワーク みやげじま「風の家」

2014年度三宅島おそうじボランティア活動報告



三宅島の噴火災害から14年が過ちましたが、「三宅島おそうじボランティア」は2005年から10回目の開催となります。この間、東京都生協連は、島民の皆さんの交流の場であるくみやげじま「風の家」への運営資金の援助と、東京災害ボランティアネットワークが開催するこのプログラムへ、構成団体として、参加を通じて三宅島の復興支援を継続して支援しています。

2014年度も、2回のプログラムが実施され、コープ災害ボランティアネットワーク（以下CO災ボ）会員と会員生協職員等に参加を呼びかけて15名の生協関係者が活動しました。第2回は強風の影響で、早朝の出航となり、予定の島内視察が実施できませんでしたが、その他のプログラムは予定通り行われました。この活動を通じて、島の皆さんと直接関わる中で、交流を深めボランティアとしての経験や気づきを感じることができました。

日程：①2014年11月28日（金）～11月30日（日） 船中1泊、現地1泊

②2014年12月12日（金）～12月14日（日） 船中1泊、現地1泊

内容：三宅島島内の独居高齢者を中心とした島民の方々のお宅のお掃除と島民との交流

参加者：①13名（うち生協関係者はCO災ボ会員3名含め7名）：

コープみらい・コープネット事業連合、生活クラブ・東京

②13名（うち生協関係者はCO災ボ会員5名含め8名）：

コープみらい・コープネット事業連合、パルシステム東京、東京都生協連



おそうじボランティア・交流

おそうじ・交流の要望の届いている島民のお宅へ、赤い帽子をかぶった東京災害ボランティアネットワークと現地の島民の方や中学生等が混ざり、班に分かれそれぞれのお宅を訪問しました。朝のミーティングで、今回初めて受け入れをされる方で介護者がいらっしゃるお宅など、それぞれのお宅の様子やおそうじボランティアを行うにあたっての注意事項を共有しました。

《参加者より》

訪問先は、伊豆地区でひとり暮らしをされている方で、知的障害がある高齢者のお宅でした。2000年の噴火後に、赤帽さんが拠点としていた旧小学校の裏山に住んでいるので、当時は毎晩のように赤帽のみなさんとの交流を深めていたようです。

■行程

出発日

22:30 東京港竹芝棧橋出港

1日目

05:00 三宅島 港到着

民宿移動 仮眠

訪問宅でおそうじ・交流

みやげじま『風の家』交流会

2日目

09:00 みやげじま「風の家」集合

～ 島内視察出発 ～

13:35 三宅島港 出帆

19:40 東京港竹芝棧橋到着・解散



到着を楽しみにお茶を入れて待っていてくださったので、お茶飲みからスタート。



火、金はヘルパーさんが来てくださっているとのことでしたが掃除機かけも行いました。



新聞紙を使って窓ガラス磨き。ピカピカになりました。

昼食交流

昼食は、訪問先のお宅で一緒にいただきました。お味噌汁や手料理を準備して待っていてくださるお宅もありました。島の中の人ではなく、島以外の人だから話せること、誰かに話すことで心が軽くなる、こうした交流が必要とされていることを感じました。



昼食後は午前の掃除を終えた班とともに、お墓掃除に行きました。ご主人が高齢のため身体が不自由になり、運転出来なくなってからは出かけるのが困難になってから、お墓掃除がずっと気になっていたそうです。車がないと出かけることもままならない島の生活。普段はご主人との会話だけで、さみしい思いをしているので、おしゃべりの時間が本当に楽しそうでした。中学生も交流の輪にしっかり参加していてとても和やかな時間となりました。

風の家での活動報告・交流

夕食後は、風を家の運営スタッフでもある島民の方が作ったお菓子やくさやの干物や飲み物で、参加者と島民の交流を深めました。2000年の噴火以降三宅島への帰島支援ボランティア活動報告のDVDを鑑賞し、班ごとに報告や感想を一人ひとりが話しました。



★第2回目の2日目(12月14日)は、前日からの強風で帰りの船の出航時間の変更され、予定していた行程は中止となりました。早朝から慌ただしい中、支度をして船に乗り込みました。



■ 12月14日行程

船の出航時間変更のため

06:00 「風の家」集合

07:00 三池港出港

14:00 東京港竹芝棧橋到着・解散

参加者の感想

- お風呂、窓、玄関、廊下、電灯の傘、仏壇など次々とリクエストがあり、やりがいがありました。ご自身も一緒に動かされた上に、お昼のみそ汁やおやつの里芋まで、心づかいをいただき感謝です。
- 人を支えあうとは、人を支えて生きることだと思います。暮らしを根こそぎ奪われた人々が、また、そこで生活を再建するのは並大抵ではないと思いました。
- 今回2回目の参加となりました。島民の皆さんが本当に赤帽の私たちを心待ちにしてくださり、短い期間の中で年末のおそうじを通じて交流を深めることができました。
- 2000年の噴火から14年が経ち、もう被災者と支援者という関係ではないかもしれませんが、このような形で災害支援が続いているのは他には例のないことと聞いています。長期にわたる災害支援のモデルとしてこれからも継続して行って欲しいと思います。
- おそうじはそこそこに、お話をたくさんさせていただきました。
- すごい大雨に降られながらも三宅島の気候も体験できました。
- 人と人との会話やふれあうことで笑顔が見えること、特別な話しはしていないけれど、こちらがほのぼのとした気持ちになれました。
- 三宅島への支援が続いていることを知り、現状を見たいとの思いで参加しました。島内のあちこちに噴火の爪痕が残り、当時を思い出されます。
- 全島避難という大変なことを乗り越えてきた島民の方々の思いや強さを会話の中で感じました。島の方々とのふれあいや交流を大切に、これからも参加したいと思います。